

Mifa



MIFA NEWS

No. 42

8/27. 2005

Moriya International Friendship Association

守谷市国際交流協会広報委員会発行

事務局 住所：守谷市大柏950-1

電話：0297-45-1111

URL：<http://www.fureai.or.jp/~mifa>



2005.6.17~23

ぐりーりー市民訪問





MIFA 総会



5月22日午前11時から、ログハウスで守谷市国際交流協会2005年度総会が行われ、54人の会員が出席しました。

会長挨拶、来賓として出席された会田市長の挨拶のあと、長年、守谷市国際交流協会に尽力された、浅川和広前副会長に感謝状と記念品の贈呈が行われました。

続いて議事に入り、2004年度決算、監査意見が承認されました。次に規約改正（規約第5条第2項副会長「2人」を「3人以内」に改正）、役員改選が承認されました。新しく選ばれた理事による理事会で、会長に小川一成氏、副会長に山田清美氏、久保昌也氏、吉田篤子氏を選出しました。続いて、2005年度事業計画、2005年度予算が可決されました。

議事の終了後、平成16年度ラオスプロジェクトの成

2005年度予算（収入）

科目	予算額(円)	備考
会費及び補助金	2,400,000	年会費/守谷市国際交流協会から
事業収入	702,000	語学講座・コンサート参加費など
雑入	16,000	預金利子など
繰越金	493,686	前年度繰越金
合計	3,611,686	

2005年度予算（支出）

科目	予算額(円)	備考
事業費	2,550,000	各専門委員会事業
旅費	100,000	交通費
役務費	65,000	保険料
事務費	459,000	事務用品・郵送料
備品購入費	40,000	物置き塗装・棚
繰出金	200,000	周年・記念事業準備基金など
予備費	197,686	
合計	3,611,686	

果および2005年度守谷市青少年海外派遣、姉妹都市市民来市の予定について報告が行われました。

総会終了後、守谷市国際交流員シュターク・サラさんによる楽しい講演、「守谷に住んで経験した異文化コミュニケーション」が行われました。

その後昼食をとりながら懇親を深め、午後3時に閉会しました。



楽しい講演をしてくれたシュターク・サラさん

小川会長挨拶



皆さん、こんにちは。

MIFAも発足してから17年。いろいろな歴史を刻んできました。発足当初は何をして良いのか、模索の時代だったのですが、今ではかなりのボリュームの事業を展開し、県下でも有数の協会に成長したと思っています。

随分、守谷市も変わりました。8月24日には常磐新線も開業します。その3日後に守谷駅前イベントが展開され、当協会もブースを借りてPR活動を行います。姉妹都市であるマインブルク、グリーリー両市の代表もお祝に駆け付けてくれます。そういった交流も計画されており、私たちもそれに積極的に参加していきたいと思っています。

そのような活動の中で特筆すべきはラオスの研修員を守谷高校に招聘して、学んで帰っていただく事業を3年前から実施していることです。この事業は国のODA予算ですべてまかなわれており、今年が最終年度になります。かつてラオスはクーデターが起こり、そのとき先生や医者といった知識人が難民として国外に流出しました。今、ラオスでは人材育成が急務であり、そのお手伝いができればと思っています。この事業に限らず、各委員会が展開している事業も価値のある事業で、私は誇り得る事業ばかりだと思っています。

今日は、それらの事業を皆さんに提示しているので、ご意見を聞かせていただければと思っています。

JICA筑波研修員受入事業



視察バスツアー

3月23日、午前9時15分～午後3時30分、JICAバスツアーに参加してきました。終日、小雨でしたが、

春雨らしいその静かなささめく雨音を傘に当てながら、次の目的地に行くのが楽しくなるような、そんなバスツアーでした。

MIFAは、毎年、JICA研修員のホームステイ受け入れをしています。彼らは、どんな目的で、何の勉強をしているの?などに興味があった私としては、研修員受け入れ事業の様を視察することは、またとない好機でした。

視察は、3カ所でした。

1. 国土地理院研修視察(国家測量事業計画・管理)＝国土地理院の概要・国土地理院の国際協力・地図と測定の科学館見学・研修紹介及び視察

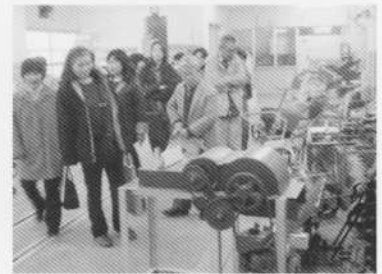
2. 建築研究所視察(地震・耐震・防災工学)＝研修概要説明・研修講義風景見学・研修施設見学・地震観測研修棟見学

3. JICA筑波農業研修実習視察＝稲研究・野菜採取・かんがい排水、農村開発

私個人としては、「農業研修実習」での研修員との触れ合いが、もっとも印象に残るものでした。素朴な人柄、研究テーマをおのこの語ってくれたその物言いに

好感が持てました。また、昼食にいただいたカレーは、とてもおいしかったです。

はるばる異国からやってきた研修員の皆さん、お国の人々のために、きっと役立ててくださいね。



JICA国際交流広場



JICA筑波では第46回科学技術週間の一環として4月20日、23日に施設の一般公開を行い、国際交流を体験してもらう国際交流広場を開催しました。

その目玉の一つとして23日に、茨城県内の国際交流・協力団体のPRブース開設が企画されましたが、MIFAはこのブース出展に参加し、パネル・模造紙展示・アルバム・パソコン等により、日頃の活動を紹介しました。また、ラオスの工芸品の物品販売も行いました。

一日で750人の来訪者があり、ほかにも50団体の出展があり、たくさんの方たちとお話することができ、貴重な体験となりました。



アヤメ祭り



青年交流委員会は、6月12日、守谷アヤメ祭りにダーツで出店しました。当日は梅雨の時期にもかかわらず、日射しの強い晴れた日となりました。

今回は手伝ってくれる人数が少なく、実際に成功させることができるのかという懸念はありましたが、当日は皆が頑張ったおかげで来客も多く成功したと思います。

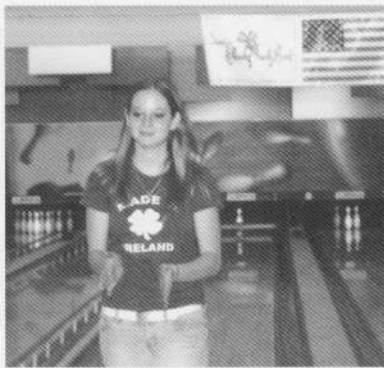
祭りでは飲食物を販売している店が多かったため、子どもから大人たちまで非常に楽しんでいただけました。特に子どもたちからは、ほかに遊べるような店がないからと、何度も来てくれる子もいました。また、造花を景品や募金のお礼にと出したところ、大人の方々からの反響がすごく、予想以上の募金も集まりました。

募金に協力してくれた皆さん、ありがとうございました。

アルバム



グリーリー市民とのふれあい



1本残り… まっ、いいか

6月18日午前10時から、フジ取手ボウルで青年交流委員会主催のグリーリー市との交流会を行いました。当日は、集合時間前から大勢集まっていて、始まる前から熱気がありました。チームに分かれ、簡単に自己紹介をした後、ボウリングを開始しました。



大洗水族館で（海のないグリーリーの人たちには太平洋はとても興味深かったようです）

初めは言葉の壁もあってか、ぎこちなく、会話も途切れがちだったのですが、ボウリングも波に乗ってくるとあちこちで拍手や楽しそうな声がわき上がりました。スコアを気にせずに、英語の会話にしどろもどろしながらも皆さん楽しんでいました。



籠に乗る人 誰が担ぐ？

ボウリングで盛り上がった後は、隣の華屋で兵衛で昼食を取りました。グリーリーの方々は、寿司やうどんといった日本の料理に恐る恐る手を出していました。感想は人それぞれで、完食した人もいれば、お寿司を口に含んだまま複雑な表情で動きの止まった人もいました。

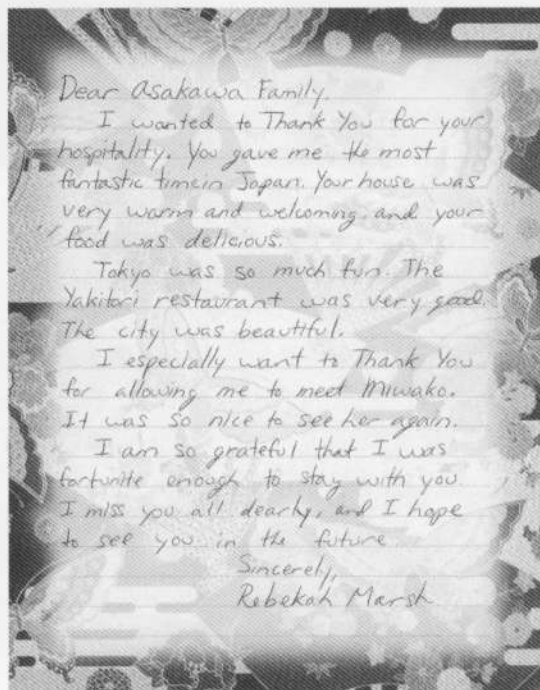


江戸の町並み

食事中は、グリーリーの高校生の早い英語を相手に、思い思いにコミュニケーションをとって



見返り美人



いたようでした。英会話のできる人はペラペラと、そうでない人もボディランゲージを交えながら楽しく交流をはかっていました。

また、あちらこちらで簡単な日本語講座を開いて、あいさつや簡単な文などの練習をしていました。短い時間でしたが、とても楽しい時間を過ごすことができました。

左：ホームステイ先に送られてきた手紙です。楽しかった様子が綴られています



江戸城で